

都道府県・ 指定都市番号	28	都道府県・ 指定都市名	兵庫県	研究課題番号・校種	2 中学校
				教科名	家庭科
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ①各内容における基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活の課題を解決する力や方法、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法等の研究 ②「生活の課題と実践」に関する指導方法及び評価の研究				
学校名(児童・生徒数) (平成 30 年 5 月 1 日現在)	<small>かわにししりつせいわだいちゅうがっこう</small> 川西市立清和台中学校 (570 名)				
所在地(電話番号)	〒666-0143 兵庫県川西市清和台西 2-3-57 電話 072(799)3418 FAX 072(799)0906				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.kawanishi-hyg.ed.jp/seiwadaijo/				
研究のキーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果に基づく生徒の実態に応じた指導 ・小・中学校 5 学年間を見通した衣生活の指導計画 ・生徒の意欲を高める ICT の活用 ・思考の流れの可視化を図るワークシートの工夫 ・地域人材のゲストティーチャーとしての活用 				
研究成果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前・事後アンケートにより、学習前の状況や学習後の変容を見取り、指導に生かすことができた。 ○ 製作に関する知識・技能を確実に身に付け、それらを活用して課題を解決する力を育成するために、小・中学校合同で衣生活に関する 5 学年間を見通した指導計画を作成した。 ○ 生徒に問題解決の過程を意識させたことで、見通しをもって製作に取り組み、主体的に課題解決を図ろうとする姿が見られるようになった。 ○ 小学校と連携し、学習内容や指導方法、用具の安全な使い方について共通理解を図ったことで、一人一人に応じた支援を充実することができた。 ○ 地域人材をゲストティーチャーとして活用し、専門家の技術や作品に触れることで、生徒の製作に対する意欲を高めるとともに、実生活との結びつきを考えさせることができた。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

衣生活の課題を解決する力と実践的な態度を育むための指導の工夫

(2) 研究主題設定の理由

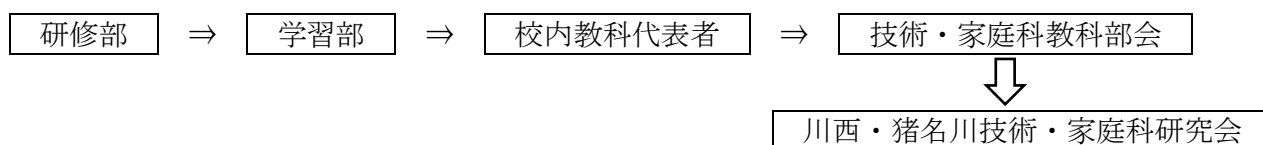
本校生徒の衣生活に対する興味・関心は高く、衣服の着用や手入れ、製作等の実習には意欲的に取り組んでいる。しかし、生徒の生活経験は少なく、小学校で学んだ基礎的・基本的な知識及び技能が十分に身に付いていないこと等から、学習したことが自分の生活に生かされていない状況が見られる。

そのため、衣生活においては技能の定着を図る指導に加え、生徒自身が学ぶことに興味をもち、自分の衣生活を振り返り、課題を見付け、快適な衣生活に向けて、その解決に取り組むことができるような指導の工夫が必要である。

そこで、「B 衣食住（衣生活）」の学習において、「校区の小学校と連携した基礎的・基本的な知識及び技能の定着とその活用を図るための5年間を見通した指導計画の作成」や「問題解決的な学習・小集団を生かした指導方法の工夫」「家庭や地域との連携方法」等について研究し、衣生活の課題を解決する力と、健康で快適な生活を送るための、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育てたい。

(3) 研究体制

<校内の研究体制>



(4) 2年間の主な取組

平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査のためのアンケートの実施・分析（対象：中学校1年生，校区内小学校6年生） ・小学校授業研究会への参加 ・「衣服」に関する企業による研修会の実施 ・衣服の着用目的，着用の仕方，活用，衣服の選択を関連付けた授業実践（衣生活「衣服の選択と手入れ」） ・中学校1年生を対象とした変容の把握（事後アンケート）
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の成果と課題を基にした指導計画の改善 ・事前アンケートの作成・実施 ・授業公開「生活を豊かにするための布を用いた製作」（指定校訪問，川西・猪名川地区中学校技術・家庭科研究会，兵庫県技術・家庭科研究大会） ・事後アンケートの実施 ・事前・事後アンケートと関連付けた分析・考察 ・川西・猪名川地区中学校技術・家庭科研究会における研究成果の報告

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

①衣生活に関する生徒の実態調査

- ・衣生活の課題を解決する力や実践的な態度等に関するアンケート項目の検討
- ・事前・事後のアンケート結果の比較・分析による生徒の変容の見取り

②衣生活の課題を解決する力を育む指導計画の工夫

- ・小・中学校の製作に関する学習内容の系統性の明確化
- ・5年間を見通した衣生活に関する指導計画の作成

③衣生活の課題を解決する力と実践的な態度を育む指導方法の工夫

- ・生徒が生活の中から課題を設定したり，見通しをもって解決方法を検討したり，計画を立てたりする際の指導方法の工夫

- ・生徒が自らの実践を振り返り、評価・改善を行うことができる、小集団を生かした授業の展開等、対話的な学びの実践
 - ・生徒がより意欲的に問題解決に取り組むことができるようにするための、思考の流れに沿って記入できるワークシートやICTの活用などの工夫
- ④小・中学校の連携を深める取組
- ・用具の安全な使い方などの指導方法についての小学校との情報共有
- ⑤家庭・地域と連携を図った取組
- ・生徒の実践に向けた意欲の向上を図るための、家庭や地域との連携

(2) 具体的な研究活動

①衣生活に関する生徒の実態調査

昨年度、地域の小学校の6年生と本校の1年生に、「衣服に関わる自立度チェック」のアンケートを実施し、その結果を分析した。今年度は、「生活を豊かにする物の製作」について、事前アンケートに加え、生徒の変容を見取るための事後アンケートも実施した。その結果、生活を豊かにするという観点から布や作り方を考えることや身の回りの衣生活のサイクルについて意欲が高まったことが分かった。事前アンケートの結果から、製作の工程を見通せていない生徒が多かったことから、基礎的・基本的な技能に加え、製作の工程を考えさせるための学習を工夫したことが、意欲を高めることにつながったと考える。

②衣生活の課題を解決する力を育む指導計画の工夫

昨年度、小中学校家庭科担当教員が合同で作成した5学年間を見通した指導計画をもとに授業を行った。また、小中学校家庭科担当教員の合同研修会を実施し、各校種における身に付けさせたい力や学習内容について確認を行いながら、指導計画の見直しを行った。

③衣生活の課題を解決する力と実践的な態度を育む指導方法の工夫

昨年度実施した、品質や取扱い等に注目してTシャツを選択する学習を踏まえ、今年度は、生徒が主体的に取り組み、衣生活の課題を解決する力と実践的な態度を育むため、題材「リメイクをしよう」において、以下に示す4つの学習過程を明確にして実践を行った。

○生活の課題発見：生活を豊かにするにはどういうことかを話し合わせ、何のためにその作品を製作するのかを明確にした。

○解決方法の検討と計画：

- ・製作したいものについて、本やインターネット、家族での聞き取りなど、多様な方法で情報を収集した。
- ・縫い方の見本や布の種類の特徴の一覧を準備し、それらを活用しながら計画を立てるようにした。
- ・「困ったこと・苦労したこと・教えてほしいこと」を小集団の中で意見交換し、それをもとに自らの製作計画を見直すようにした。
- ・ICTを用いて、前時の学習を振り返ったり、縫い方や布の種類といった、本時で気をつけたいことについて確認を行ったり、話し合ったことの共有を行ったりした。

○課題解決に向けた実践活動：自分で立てた計画をもとに製作活動を行い、毎時間、うまくいったことや苦労したことをワークシートに記入することで、思考の流れの可視化を図った。

○実践活動の評価・改善：小集団で振り返りを行い、自らの課題や次回の製作において気をつけたいことを考えさせた。

④小・中学校の連携を深める取組

昨年度に引き続き、中学校家庭科担当教員の小学校の授業参観や研修会への参加、授業実践に関する情報交換、実態調査結果の共有、分析結果を基にした系統性の確認を通して、学習内容や、用具の安全な使い方などの指導内容に関する共通理解を図った。

⑤家庭・地域と連携を図った取組

昨年度は、ホームページによる授業内容やその様子の公開、家族によるコメントの依頼等、地域や家庭と連携を深める取組を行った。今年度は、「生活を豊かにする物の製作」において、ゲストティーチャーとしてリメイク作品を製作している地域人材を活用した。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- ・・・ 事前アンケートにより、衣生活における課題を把握し、指導に生かすとともに、事後アンケートにより生徒の変容を見取ることができた。
- ・・・ 製作に関する知識・技能を確実に身に付け、それらを活用して課題を解決する力を育成するために、小・中学校合同で衣生活に関する5学年間を見通した指導計画を作成した。また、それぞれの段階でそれらの技能を身に付けることができる適切な教材について検討することができた。
- ・・・ 問題解決の一つ一つの過程を明確にし、生徒と確認し合いながら学習を進めたり、それぞれの過程に合わせたワークシートの工夫等を行ったりしたことで、見通しをもって製作に取り組むとともに、つまずいた場合にも、既習の知識・技能を活用して解決しようとする姿が見られるようになった。
- ・・・ 小学校と連携し、学習内容や指導方法、用具の安全な使い方について共通理解を図ったことで、生徒のつまずきをあらかじめ想定することができ、一人一人に応じた支援を充実することができた。
- ・・・ 地域人材をゲストティーチャーとして活用し、専門家の技術や作品に触れることで、生徒の製作に対する意欲を高めるとともに、実生活との結びつきを考えさせることができた。
- ・・・ 小学校では毎年家庭科の担当教員が代わる可能性が高いため、5学年間を見通した指導計画を作成し、用具の安全な使い方等について、小・中学校間で共通理解を図る。
- ・・・ 新学習指導要領をもとに身に付けさせたい力を明確にし、評価規準や評価方法を検討する。

4 今後の取組

- ・ 平成31年度全国技術・家庭科研究大会（兵庫大会）にて研究成果を発信するなど、中学校技術・家庭（家庭分野）における、衣生活の課題を解決する力や実践的な態度を育むための指導方法等について周知を図る。
- ・ 本研究を生かし、新学習指導要領における衣生活以外の内容についても、課題を解決する力や実践的な態度を育むための指導方法及び評価方法等について研究するとともに、小・中学校間での授業参観や合同研修会を実施し、共通理解を図る。